

2012.11.1

102

もくじ

5

2

特集 知られざる京都の文化財④
「賀茂季鷹の蔵書」

京都市文化市民局文化芸術都市推進室 文化財保護課技師

京都の文化財を守る会 会長 小澤 一也／名勝 双ヶ岡保存会 会長 舟越 勝博

安井 雅惠

7

表紙写真解説 守り伝えよう京都の文化財
助成文化財の紹介－十念寺書院襖絵「雲龍図」

8 保護財団の活動

会報



公益財団法人 京都市文化観光資源保護財団

Kyoto cultural tourist resources protection foundation

か もの すえたか
賀茂季鷹の蔵書

京都市文化市民局文化芸術都市推進室
文化財保護課技師

安井 雅恵

はじめに

上賀茂神社の東には、かつて社家（神社の神職の家系）が集住して社家町を形成していました。その景観は現在もよく残っており、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。江戸時代後期、その一角に賀茂季鷹（1754～1841、図1）という祀官が住居を構えていました。季鷹は上賀茂神社の祀官であると同時に、少年期から有栖川宮家に仕えて、^{よりひと}職仁親王に歌道を学び、歌人としてその名を知られていました。当時の都の紳士録である『平安人物志』には、文化10年（1813）版から「歌」の部に名前が挙げられ、文政5年（1822）版以後、トップに挙げられています。絵画調査の折にも、季鷹が贊をした掛軸などをしばしば目にすることがあり、季鷹が名声を得ていたことがうかがえます。季鷹が『古今和歌集仮名序』にちなんで「雲錦亭」と名付けた別荘は、文化サロンとして機能し、京都はもちろん、本居宣長などを筆頭に地方からも訪問客が絶えなかったといいます。訪れた文人墨客は、季鷹の蔵書をお目当てのひとつとしていたことでしょう。季鷹は京でも指折りの蔵書家であったのです。季鷹が蒐集した大量の典籍は、ほぼまとまった状態で季鷹の家系に残されていました。今年の4月に、それらは「賀茂季鷹関係典籍類」と命名され、京都市の文化財として指定されました。

指定に至るまで

近年まで季鷹の蔵書は、季鷹が暮らした場所で、子孫の方に大切に保管されていました。しかし、一般的の家庭で大量の典籍を、状態良く保存するのはたいへん難しいため、所有者のご判断で九州大学に寄託されることになりました。しかし、寄託を受けられた教授の退官や様々な事情で、京都市歴史資料館に移管される



図1 賀茂季鷹肖像画（個人蔵）

ことになり、季鷹の蔵書は京の地に戻ることになりました。

段ボール箱にして60箱以上に上る蔵書には、季鷹の没後、子孫が集めた書籍も含まれていましたが、典籍研究の第一人者である藤本孝一氏が1年以上かけて全点の目録を作成されました。この成果を受けて、京都市が指定に向けて再調査に取りかかりました。具体的には、本の採寸、丁数（1冊を構成する紙の枚数）の確認、奥付の採録などの作業があり、これに2年を要しました。また、内容を吟味して、全部で1400件以上に及ぶ蔵書を、江戸時代までの典籍1269件、冊数にして3100冊余りまで絞り込みました。季鷹の生涯や人となりを知る上で重要な資料である季鷹の墓碑には、「和漢の書籍数千巻を藏す」というくだりがあります。調査によって、これが決して誇張された数字でないことが証明されたわけです。歌人として一家を成し、国学も学んだ季鷹が自分の勉学のため、また好奇心を満たすために蒐集した蔵書は貴重かつ膨大で、散逸せず、その家系に伝えられたのは、たいへんに意義深いことです。文化財保護審議会でも重要性が認められ、京都市の指定文化財となりました。また、当初書物が納められていた僕舎式の書籍箱も現存しており、季鷹の蒐集の実態を示すものであるので、附として指定を受けました。

「和漢の書籍数千巻」～季鷹蒐集の本

近世までは、「本」と言えば人が筆で書きうつした写本が主たるものでしたが、江戸時代に入ると1枚の版木に文字を刻んで印刷する版本文化が隆盛を迎え、多くの版本が流通するようになりました。

しかし、出版に乗らない本は依然として多く、江戸時代の愛書家にとって、筆写は書籍蒐集の重要な手段であり続けました。季鷹の蒐集品にも多くの版本が含まれていますが、件数でいくと全体の6割程度が写本で、季鷹も同様にして本を集めたことが見てとれます。季鷹自筆の写本も多く、奥書きに「ある人物から借り受けた本を浪花の客舎で筆写した」と記すものもあり、旅先でも熱心に書籍を求めた季鷹の姿が浮かび上がります。

また有名、無名に関わらず、蔵書家たちは自らの所蔵品であることを示すために蔵書印を作り、愛書に押していました。そのため、蔵書印でその本がどういう人物の手を渡ってきたのかがわかります。季鷹も書籍に「季鷹」「賀茂県主」「雲錦」「生山書庫」「歌仙堂記」「上賀茂歌仙堂」(図2)といった蔵書印を押しています。「雲錦」「生山」はそれぞれ季鷹が名乗った号であり、「歌仙堂」は、邸内に柿本人麻呂と山辺赤人を祀った御堂「歌仙堂」を設けたことに由来します。季鷹本人の蔵書印の他にも、様々な蔵書印が見出せます。

書籍箱には源氏物語の巻名が与えられています。残念ながら傷みがきつく、中の書籍はすべて取りだされていますが、多くの本の表紙に源氏物語の巻名が記されており、当初の収藏の姿をうかがい知ることができます。加えて、書



図2 季鷹の蔵書印「歌仙堂記」

籍から知りえない情報が記されている点も貴重です。

例えば、蓋に記された墨書銘「今昔物語 参拾冊(蓋表)／天明三年於江戸新写 季鷹(蓋裏)」から、季鷹が明和9年(1772)から寛政3年(1791)の間、遊学していた江戸でも意欲的に書籍を蒐集していたことが見て取れます。同じく江戸での蒐集を示す墨書に、「日本事纂 四十二冊(蓋表)／在江戸中高松候御藏書を奥州棚倉小笠原佐渡守殿もて令拝借令寫畢 季鷹(蓋裏)」というのもあり、季鷹が大名とも身分を越えて書籍のやりとりをしたことを示しています。

それでは、蔵書の内容に移りましょう。蒐集品は分野で言うと、叢書、目録、神道、仏書、思想、辞書、物語、隨筆、日記文学、歌書、懐紙、音楽、芸能、美術、故実、儀式、記録、地誌、医書、教科書、漢籍と多岐に渡ります。歌人であった季鷹らしく、歌書の割合が最も多く、物語や日記文学などの日本の古典作品も多数に上ります。季鷹による朱筆の書入れがびっしりと入ったものも多く認められます。源氏物語関係の写本も多く、季鷹の書き込みがある『源氏物語』写本45冊からは、季鷹の研究の様子がうかがえます。他方、漢籍には全く書入れがありません。一般教養として備えていたものでしょうが、季鷹の興味のあり様が如実に表れていて、興味深い点です。

蒐集品の中でも、特に重要な典籍は、鎌倉時代の古写本『清輔朝臣片仮名古今集下』1帖(図3)です。『古今和歌集』の伝本にはいくつかの系統がありますが、清輔本は原型を想定できる伝本のひとつに位置づ

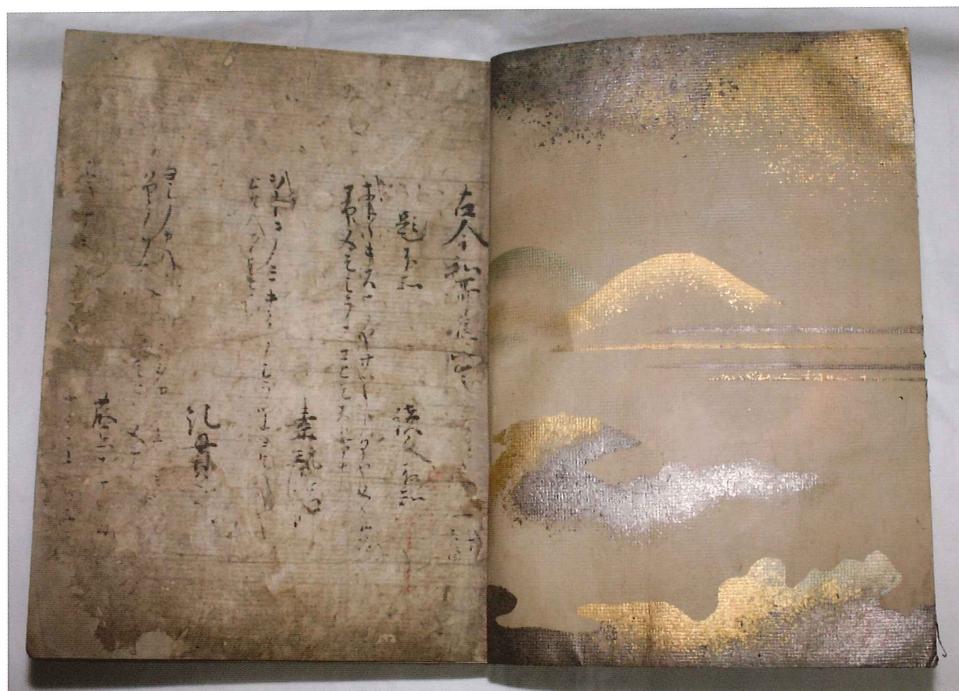


図3 『清輔朝臣片仮名古今集下』



図4 『蜻蛉日記』

けられています。季鷹が所蔵していた清輔本の古写本は、添状によると、文化8年（1811）の歌仙堂落成を祝って知人から贈られたものですが、静嘉堂文庫に所蔵される模写本によって、その存在が知られるのみで、幕末から現代に至るまで、実物を見た人がほとんどいないという稀観本でした。同書は列状装大和綴という綴じ方をされていますが、紙の折り目の部分が切り放たれているので、裏（紙背）が見られる状態になっており、一旦使用された紙の裏を利用して書写されたことがわかります。従来、平安後期の歌人藤原清輔筆の写本とされていましたが、紙背文書の書体などから鎌倉時代中期頃に筆写されたものと見られています。

他に、特徴的な書物を挙げていくと、目録部では『歌仙堂書籍目録』があり、季鷹叢集の全容がうかがえます。また、『歌仙堂書籍出納録』は、季鷹蔵書を借用した人物が記されており、季鷹の交友関係がしのばれて貴重です。神道部は、神職にあつただけに部数も多く、130点余に及びます。中でも『賀茂競馬記』は上賀茂神社の競馬について記したもので、注目されます。これに対して、仏書・思想・辞書部は少ないのですが、辞書である『慶長版節用集』は、古活字版の貴重な版本です。古活字版とは、近世初頭の半世紀の間に行われた、木活字を組んで印刷した版本のことです。他に

も日記部に、珍しい『蜻蛉日記』の古活字版があり、季鷹が書入れをしています（図4）。懐紙・音楽・芸能・美術部はそれぞれ少ないので、正倉院宝物を江戸時代に写した『東大寺三藏什物写』は淡彩を施しており、入念に写された巻子本（巻物）です。記録部では、大黒屋光太夫が漂着先のロシアから生還し、11代將軍徳川家斉に拝謁した折の記録『寛政五年將軍家漂民御覧記』が、挿絵入りで興味深い写本です。季鷹は、寛政5年（1793）には京に戻っていましたが、このセンセーショナルな出来事に同時代人として関心があったかもしれません。この他にも重要な書籍、未紹介の書籍も多く含んでおり、貴重な文化遺産と言えるでしょう。

おわりに

季鷹の蔵書は個人の所蔵品であることに加え、全容が不明であったため、これまで公開されることはありませんでした。しかし、京都市の文化財として指定されたことを受け、今秋、京都市歴史資料館の特別展「賀茂季鷹の文学」（会期：平成23年11月19日～平成24年1月11日）でお披露目される運びとなりました。実物を見るまたとない機会ですので、是非お運びいただければと思います。

（了）

京都の文化財を守り伝えるための私達の活動

京都市文化観光資源保護財団の事業活動は、全国の方々から寄せられる寄附金とともに、京都の文化財を守り伝える趣旨のもとに活動されている市民活動団体や地元地域の保存団体の皆さんのご協力によって支えられています。

当財団の活動にご協力をいただいているこれらの団体のなかから、昭和43年の設立以来これまで43年間にわたり市民による京都の文化財愛護団体として、活動されている『京都の文化財を守る会』と昭和62年に設立され「名勝 双ヶ岡」の景観・環境保護のために地元地域で活動に取り組まれている『名勝 双ヶ岡保存会』のそれぞれの代表の方から今回ご寄稿をいただきましたので、その活動内容や日常の取り組みなどについてご紹介します。

京都の文化財を守る会 会長 小澤 一也

京都の文化財を守る会は、昭和43年11月3日に京都府教育庁文化財保護課が実施する移動文化財講座の参加者を募集するため設立され発足した団体です。設立時は、京都市内は各行政区別に、府下は丹波地区、丹後地区、南山城地区等郡部の地区別に分けられ計13グループで発足しました。当初は、500名程度の会員が登録されていた様です。各地区に幹事、副幹事を置き、各地区の研修会の業務は文化財保護課に属する京都府文化財保護基金所属の方が事務局としてお世話いただきました。発足から今日まで会員が“文化財を愛する”という考えを熱心に実行し、熱意をもって行動してきました。今年で設立43年となります。長年にわたり活動を続けられたのも会員各位の熱心な努力のたまものだと思います。

平成元年迄は、京都府出身の方々が会長職をつとめられておりましたが、自主運営の民間組織として行動する様指導をいただきました。

発足時より幹事や副会長として、故柴田俊治氏が民間組織初代会長に就任し、民間団体として平成元年5月より活動を始めました。平成7年より2代目会長として笹池正二氏が引継がれて活躍に活動していただきました。平成13年より3代目会長として、私が引継ぎ現在に至っております。会員皆様方の熱心なご協力により京都の文化財関係の団体として根付いています。行政区制割を集めし平成11年度より支部を4支部にまとめました。内訳は、次の通りです。

北支部 京都市北区、上京区、左京区

中支部 中京区、下京区、南区、右京区

東支部 東山区、山科区

西南支部 伏見区、西京区、西山地域、

南山城地域、丹波丹後地域

各支部には、支部長、副支部長2~3名を置き、各



“京都の文化財を守る会”ボランティアで当財団主催の非公開文化財特別公開事業の参観者に文化財の説明をされる筆者

支部の企画運営を行っています。各支部内では、年間3回程度の研修を行い、他支部からの協力や参加案内を出して活動しています。最近2年間の各支部研修活動の一部をピックアップし報告します。

『北支部』では、●西の京川井家住宅、奥渓家住宅
●京都ハリストス正教会 ●日本写真印刷株「ニッシャ」印刷資料館 ●「岩澤の梵鐘」工場見学

『中支部』では、●奥嵯峨方面・嵯峨鳥居本町並み保存館他 ●木屋町界隈の幕末史跡めぐり、日本銀行京都支店 ●松尾大社・華嚴寺・地藏院 ●山科随心院・醍醐天皇陵

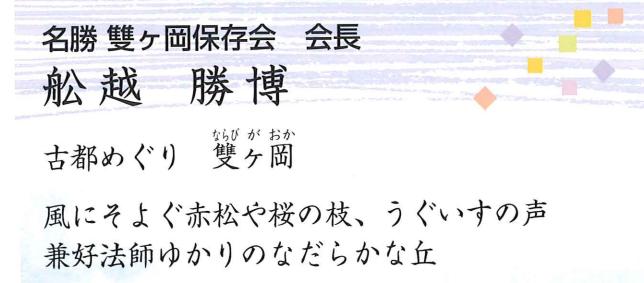
『東支部』では、●山科の歴史と史跡概要・山科本願寺の歴史等、支部長宅でスライドを見ながら研修 ●日野法界寺・日野誕生寺・日野家墓 ●大津京と周辺史跡、近江神宮・時計館・宝物館・南滋賀廃寺跡、古墳群歴史探訪 ●元慶寺周辺・清閑寺・六条高倉天皇陵・清水周辺の史跡文化財探訪

『西南支部』では、●慈照寺（銀閣寺）・淨土院・八神社 ●奈良・平城遷都1300年会場周辺 ●亀岡市・愛宕神社・丹波国分寺跡・養仙院・神応寺 ●黄檗山萬福寺と塔頭宝蔵院

以上の様に普段なかなか見学出来ない所もあり参加者には良い勉強をさせてもらったと喜ばれ好評な行事

が多くあります。

平成6年には、「古都京都の文化財」として17社寺・城が世界遺産の文化遺産に登録されました。登録基準は5つある中の②と④に該当します。以下、②と④について説明します。②は、ある期間あるいは世界のある文化圏において建築物、技術記念碑、都市計画、景観設計の発展に大きな影響を与えた人間的価値の交流を示していること。④は、人類の歴史の重要な段階を物語る建築様式あるいは建築的または技術的な集合体、あるいは景観に関するすぐれた見本であること。登録された17社寺・城は、●鹿苑寺（金閣寺）●教王護国寺（東寺）●清水寺●醍醐寺●本願寺（西本願寺）●宇治上神社●平等院●二条城●慈照寺（銀閣寺）●天龍寺●西芳寺（苔寺）●賀茂別雷神社（上賀茂神社）●賀茂御祖神社（下鴨神社）●龍安寺●仁和寺●高山寺●延暦寺です。文化財の宝庫として知られている我々の住んでいる京都には、登録された社寺・城以外にも立派な社寺が沢山あります。『京都の文化財を守る会』も世界遺産を巡回する計画を本部主催で立案し、数年かけて研修を行いました。会員有志の説明を受け、各社寺・城を巡回しました。西芳寺（苔寺）では、般若心経の写経を体験し、般若心経を3回唱えたあとご住職の講話を拝聴しました。このあと、庭園を散策した日の印象が強く残っています。



北から順に、一の丘、二の丘、三の丘、三つの丘が行儀よく並ぶ雙ヶ岡は古墳時代後期より貴人や文人たちに愛されてきた。この丘は高度経済成長期も地域の人々や京都市の保存活動によって乱開発をまぬがれ広場や遊歩道の整備、植生の手入れや植林などの活動が続けられている。洛西の町並からぽっかりと浮き出た雙ヶ岡。赤松を中心に檜や杉、楓などの樹木が丘を覆い、つつじや椿が傍らに咲く遊歩道もあれば、かけすや、目白のさえずりは散歩する人々をなごませ、どんぐりの実は子供たちの秋の遊び道具となる。雙ヶ岡と人々の関わりは古く古墳時代後期を中心に、丘の上に約23基の古墳が造られた。その多くは直径10~20mの円墳だが、一の丘頂上には巨石を用いた直径44mの円墳が残る。この古墳は一号墳と呼ばれ横穴式石室の中からは金環や須恵器などが出土した。そのため、位の高い人の墳墓であったと思われる。都が京に移されて

本部では、年間行事として総会と研修会（講演、見学会等）秋の本部研修会（バス利用社寺等見学会等）を行っています。

又、活動の一環として、京都市文化観光資源保護財団主催の未公開寺院の特別公開、修学院離宮の特別参観、文遊廻廊「平安京を巡る」「京の町家を訪ねて」等の事業に協力し、当会のボランティア部員が受付、誘導、説明等を行ってきました。未公開寺院の特別公開では、現在も継続的に春は、椿の「尼門跡寺院 靈鑑寺」、秋も紅葉の靈鑑寺に協力し、その他主催される公開事業や研修会等に参加協力しています。

我々の先輩諸氏の守り育て伝えてこられた文化財は、私達の生活の中に生き続けています。文化財保護憲章にもうたわれている様に、ふるさと京都の文化財を大切に、うるわしい自然とその景観を守り、伝統を受け継いで新しい文化の創造に努め、郷土愛に結ばれて文化京都の発展につくす様に活動していきます。

最後になりますが、当会も発足時からの会員は少くなり、その後会員となられた方々も年を重ねています。

若い世代の文化財に興味のある方々が会員となり、好きなことを継続して文化財保護の活動を積極的に進めて、京都の文化財を守る意識を高める人達が多くなることを願っています。



名勝 双ヶ岡
全景と一の丘頂
上の石室

からはこの丘は天皇の遊狩地や別荘地とされた。

平安時代前期に右大臣清原夏野もこの付近に別荘を営み双岡大臣などと呼ばれた。また、雙ヶ岡は吉田兼好ゆかりの地でもある。兼好は二の丘西に簡素な庵を結び、そこで隨筆「徒然草」を著したという。せわしく生きることを嫌い奥ゆかしく粹な暮らしを望んだ兼好は都に近からず遠からずこの場所で晩年を過ごし世の中の有り様を見つめたのだ。兼好は、この地に骨を埋めるつもりで墓所を設け、傍らに桜を植えさせた。4月下旬兼好が好んだ桜が満開になり丘を華やかに彩る。

保存会の活動

月1回の清掃と365日の見回り活動

名勝 双ヶ岡保存会は、昭和62年10月1日に発足。近くで世帯数の多い御室自治連合会を母体に活動しています。お盆の8月を除いて毎月1回山麓10町内から各3~4名、役員7名の 約45名にて散策周辺を清掃しています。保存会の監視員4名で公園、周辺道路、丘の各階段等の清掃作業、樹木の状態、危険な場所はないか、野放しの犬はいないか交替で森の巡回もしています。双ヶ岡の歴史を次の世代に伝えることも大切だと思っております。

奉仕活動

◆御室小学校 1年生「ごみ〇の日」 5月30日

1年生 58名、先生、民生児童委員、保存会の 計73名にて双ヶ丘の清掃に協力して頂きました。(写真①)



◆日本ボーイスカウト平安地区の活動

第58団、76団。保護者同伴にて日曜日に双ヶ丘で宝さがしゲーム、清掃に協力もする。(写真②)



◆京都府オリエンテーリング協会の活動

京都市オリエンテーリングクラブ 代表 久保喜正
(写真③)

◆京都市内の幼稚園児

通園バスにて双ヶ丘で楽しく遊んで帰ります。(写真④)

表紙写真解説

守り伝えよう京都の文化財－助成文化財紹介

十念寺書院襖絵「雲龍図」

紙本墨画・曾我蕭白 筆・制作年代不詳
京都市上京区寺町通今出川上ル鶴山町

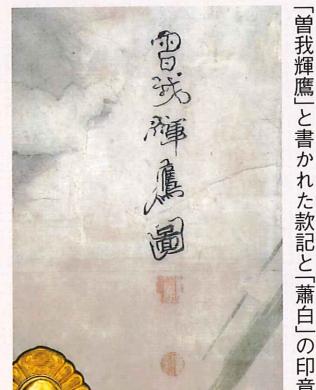


十念寺は、永享三年（1431）に後龜山天皇の皇子・真阿上人が、室町幕府六代將軍足利義教の帰依を受け、元誓願寺通小川にあった誓願寺内に一坊を建てたのが始まりで、天正九年（1591）に豊臣秀吉により現在地に移されたと伝えられる。

本図は、江戸時代後期の京都出身の画家 曾我蕭白（1730～1781）筆による当寺の書院に4面のみ遺る襖絵「雲龍図」で、京都では数少ない蕭白の貴重な作品といわれる。

長年の劣化等による損傷が著しいことから平成22年に修理が施され、当財団で助成を行いました。

撮影 神崎順一



「曾我蕭白」と書かれた款記と「蕭白」の印鑑

保護財団の活動

顧問並びに専門委員を選任

理事会において、10月1日付で顧問並びに専門委員に下記の方々が選任され、ご就任いただきました。(順不同・敬称略)

◇顧問

就任 井上与一郎（京都市会議長）

退任 小林 正明

◇専門委員

尼崎 博正（京都造形芸術大学教授）

小椋 純一（京都精華大学教授）

川上 貢（京都大学名誉教授）

武田 恒夫（大阪大学名誉教授）

西川 幸治（京都大学名誉教授）

森谷 寅久（武庫川女子大学名誉教授）

平成23年度 文化観光資源保護助成事業に53件、6,509万円の申請がありました。

文化観光資源保護助成事業について、本年度は下記の53件、6,509万円の助成金交付申請がありました。事務局では、申請のありました保護事業の各内容を精査するとともに、現地調査及び資料収集、写真記録を行いました。

平成23年度 文化観光資源保護助成事業申請一覧

1) 文化光資源保護事業に対する助成

(1) 建造物の部

単位：万円

申請者	事業内容	助成金申請額	申請者	事業内容	助成金申請額
観音寺（上京区）	大玄関修理工事	70	神泉苑（中京区）	鐘楼屋根修理工事	70
建仁寺（東山区）	三門修理工事	70	計	3件	210

(2) 美術工芸品の部

単位：万円

申請者	事業内容	助成金申請額	申請者	事業内容	助成金申請額
長得院（上京区）	本堂襖絵「鷺図」等修理	70	真正極楽寺（左京区）	「花車図」六曲一双屏風左隻修理	70
冷泉家時雨亭文庫（上京区）	「樓閣山水図」貼交襖絵等修理	70	泉涌寺（東山区）	木造「釈迦如来坐像」修理	70
禪林寺（左京区）	「和漢朗詠色紙貼交」六曲一双屏風修理	70	計	5件	350

2) 伝統行事・芸能の保存及び執行に対する助成

(1) 伝統行事の保存及び執行

●保存事業の部

単位：万円

申請者	事業内容	助成金申請額
祇園祭山鉾連合会	祇園祭山鉾10基修理事業	355
京都五山送り火連合会	京都五山送り火火床等整備事業	380
計	2件	735

●執行事業の部

単位：万円

申請者	事業内容	助成金申請額	申請者	事業内容	助成金申請額
葵祭行列協賛会	葵祭行列の執行	675	広河原松上げ保存会	広河原松上げの執行	26
祇園祭協賛会	祇園祭山鉾巡回	2,000	雲ヶ畠松上げ保存会	雲ヶ畠松上げ	20
京都五山送り火協賛会	京都五山送り火点火	650	鳥相撲保存会重陽社	鳥相撲	13
時代祭協賛会	時代祭行列	623	西之京瑞饋神輿保存会	瑞饋祭	26
嵯峨お松明式保存会	嵯峨お松明	20	北白川伝統文化保存会	北白川高盛御供	12
賀茂競馬保存会	賀茂競馬	26	日野裸踊保存会	日野裸踊	6
藤森神社駄馬保存会	藤森駄馬	26	鞍馬火祭保存会	鞍馬火祭	200
糺の森流鏑馬神事等保存会	糺の森流鏑馬	30	桂川舟渡し保存会	松尾祭桂川舟渡御	13
鞍馬山竹伐り会式保存会	鞍馬山竹伐り会式	13	計	18件	4,405
花脊松上げ保存会	花脊松上げ	26			

(2) 伝統芸能の保存及び執行

● 執行事業の部

単位：万円

申請者	事業内容	助成金申請額	申請者	事業内容	助成金申請額
蹴鞠保存会	蹴鞠の執行	20	嵯峨野六斎念仏保存会	嵯峨野六斎の執行	20
平安雅楽会	雅楽 ツ	20	壬生六斎念仏講中	壬生六斎 ツ	20
壬生大念佛講	壬生狂言 ツ	20	西方寺六斎念仏保存会	西方寺六斎 ツ	13
神泉苑大念佛狂言講社	神泉苑狂言 ツ	20	川上やすらい踊保存会	川上やすらい花 ツ	13
千本えんま堂大念佛狂言保存会	千本えんま堂狂言 ツ	20	今宮やすらい会	今宮やすらい花 ツ	13
嵯峨大念佛狂言保存会	嵯峨狂言 ツ	20	玄武やすらい踊保存会	玄武やすらい花 ツ	15
吉祥院六斎保存会	吉祥院六斎 ツ	20	上賀茂やすらい踊保存会	上賀茂やすらい花 ツ	13
久世六斎保存会	久世六斎 ツ	20	久多花笠踊保存会	久多花笠踊 ツ	26
中堂寺六斎会	中堂寺六斎 ツ	20	八瀬郷土文化保存会	八瀬放免地踊 ツ	20
梅津六斎保存会	梅津六斎 ツ	20	松ヶ崎題目踊保存会	松ヶ崎題目踊 ツ	13
小山郷六斎念仏保存会	小山郷六斎 ツ	20	番匠保存会	木遣音頭と番匠儀式 ツ	13
千本六斎会	千本六斎 ツ	20	計	23件	419

3) 文化観光資源をとりまく自然環境の保全等に対する助成 単位：万円

申請者	事業内容	助成金申請額
京都古文化保存協会(東山区)	松喰虫駆除事業	320
計	1件	320

4) 文化観光資源施設整備事業

単位：万円

申請者	事業内容	助成金申請額
知恩院(東山区)	宝蔵修理工事	70
計	1件	70

文化観光資源保護助成申請事業の調査から —“建仁寺三門”的保存修理—

建仁寺は、日本の臨済宗の開祖である栄西禅師が建仁2年（1202）に創建した京都最古の禅宗寺院。今回修理される三門（写真①）は、大正12年に静岡県の安寧寺から移築されたもので、「御所を望む楼閣」という意味で「望闕樓」と名付けられている。長年の老朽化による屋根瓦（写真②）や隅木の破損による軒廻りの損傷などが随所に見られる。修理工事は、屋根瓦の葺替え、野垂木・野地板をはじめとする腐朽木材の取替え（写真③、④）、山廊の塗り替え等の各工事が行われ、本年11月頃の完成予定です。



『京都文化財防災対策連絡会』に参画し、 京都の文化財防災に取り組んでいます。

『京都文化財防災対策連絡会』は、昭和37年に結成され現在、関係機関12者で構成し当財団も参画しています。当会では、構成する各機関が行う文化財防災などについて、相互の連絡調整を行うことにしています。

特に、東日本大震災において文化財にも甚大な被害が発生したことから、災害から文化財を守る為の事前の備えや防災施設の整備、災害時の対応などについて今後更に取り組みを推進していくことにしています。

「文化財保護に関する巡回よろず相談」事業に 共同参加しました。

京都府内の文化財所有者を対象にした文化財に係る修理、補助金や貸付制度等あらゆる相談に応じる“平成23年度 文化財保護の巡回よろず相談”（10月4日・主管：財団法人京都文化財団）が、京都の文化財関係機関7者の共同参加により実施され、補助金の相談では当財団の助成制度について詳しく照会しました。

京都市指定文化財「長江家住宅－祇園祭屏風飾り」 特別公開を実施しました。



「長江家住宅」の祇園祭宵山の屏風飾りの特別公開事業を、去る7月14～16日に実施しました。本年は、16日の最終日が土曜日ということもあり期間中延べ1,238名の見学者を数えました。京都の伝統的な町家建築と当家所蔵の屏風などを鑑賞されました。

2012年版 京の文化財卓上カレンダー『京の名建築』をテーマに作成しました。

京都の文化財や観光資源を広く普及啓発することを目的に毎年作成しています京の文化財卓上カレンダー2012年版を『京の名建築』をテーマに下記の内容で作成しました。

■規格 卓上型・10cm×17.4cm・15枚組（表紙等含む）・解説書

■掲載内容

表紙…大徳寺 唐門と方丈	7月…知恩院 三門
1月…清水寺 本堂	8月…松尾大社 本殿
2月…北野天満宮 本殿	9月…曼殊院 書院
3月…高台寺 霊屋	10月…本願寺 唐門
4月…仁和寺 金堂	11月…東福寺 三門
5月…妙心寺 法堂	12月…醍醐寺 三宝院表書院
6月…勧修寺 書院	13年1月…吉田神社 斎場所太元宮



■価格 限定500部 700円（税込）

■販売場所 当財団事務局、京都総合案内所（JR京都駅）、東京「京都館」

※会員の方は、割引頒布をいたします。申し込みは、会員事業案内をご覧下さい。

非公開文化財特別公開事業「京の文化財探訪」を実施します。

普段は、非公開の京都の文化財や観光資源を公開する京の文化財探訪事業を実施します。当事業を通じて、文化観光資源保護の思想普及啓発を図りまた、文化財所有者の維持管理の負担を軽減していただくため、事業の実施を通じて支援するものです。

「靈鑑寺」の文化財特別公開

尼門寺院の格式と景観を伝え、樹齢350年のタカオカエデが紅葉する庭園と文化財や皇室ゆかりの御所人形などを鑑賞していただけます。



- 日時 11月18日(金)～27日(日)
10時～16時（受付は15時30分まで）
- 所在地 京都市左京区鹿ヶ谷御所ノ段町
- 参観料 700円
(参観料の半額は、靈鑑寺の文化財維持管理に充当します。)

「廣誠院」の文化財特別公開

史跡高瀬川一之船入りの南側にあって、明治期の数寄屋造り邸宅の建築や紅葉が美しい庭園を鑑賞していただけます。



- 日時 11月19日(土)～23日(水)
10時～16時（受付は15時30分まで）
※12時～13時の間、受付休止します。
- 所在地 京都市中京区河原町通二条下る東入る一之船入り町
- 参観料 700円
(参観料の半額は、廣誠院の文化財維持管理に充当します。)

上記の事業では、「京都の文化財を守る会」ボランティア部の皆さんに案内・説明など行っていただきます。

第42回 京の郷土芸能まつり“鎮魂と念仏”を開催します。

京都市域に保存伝承されています郷土芸能を、舞台で公演していただくことで保存団体の伝承活動を高め、多くの方々に啓発するため毎年開催しています。

第42回を迎えます今回は、“鎮魂と念仏”をテーマに開催します。災いの厄払いと靈を鎮めるために行われてきた京都の行事、芸能と京都ゆかりのまち宮城県大崎市の「高倉薬太鼓」の特別出演をまじえてご覧いただけます。

- 日時 2月26日(日) 開演14:00
- 会場 京都会館第2ホール（京都市左京区岡崎）
- 料金 2,000円（1階・座席指定席）
- 販売場所 京都会館・高島屋京都店プレイガイド・京都総合案内所（JR京都駅）12月1日より

- 出演芸能 ●吉田神社節分祭「追儺式」 ●川上やすらい花
- 岩戸山祇園囃子 ●千本六斎念仏
- 上高野念仏供養踊 ●特別出演 宮城県大崎市「高倉薬太鼓」

※会員の方は、割引頒布をいたします。申し込みは、会員事業案内をご覧下さい。



千本六斎念仏



吉田神社節分祭「追儺式」



岩戸山祇園囃子

ご支援・ご協力ありがとうございました

特別寄附金・一般寄附金・基金寄附金 芳名録 (2011.6.11 ~ 8.31) (敬称略)

【特別寄附金】

[基本財産寄附]

伊勢 初枝 (京都市) 前号掲載氏名誤りにつき再掲載

[公益目的事業共通]

法人

薬師寺 代表役員 安藤靖高 (京都市)

個人

山田 庫市 (京都市)

蔭山 利雄 (京都市)

川嶋 純子 (さいたま市)

岡田 直久 (京都市)

梅田喜代子 (芦屋市)

金子 明子 (京都市)

中根アキ子 (長岡京市)

川嶋 博 (さいたま市)

ほか匿名3名

[文化観光資源保護事業]

法人

(株)田中長奈良漬店 代表取締役 田中長兵衛 (京都市)

個人

赤間 義男 (向日市)

高橋 克枝 (京都市)

加勢 満男 (京都市)

赤間喜代子 (向日市)

築本佳世子 (神戸市)

加勢 本子 (京都市)

小塙 恭市 (長岡京市)

平野 昭子 (京都市)

大野 要範 (神戸市)

ほか匿名5名

【一般(会員)寄附金】

法人

慈濟院 代表役員 小林承鐵 (京都市)

常寂光寺 代表役員 長尾憲佑 (京都市)

ウェスティン都ホテル京都 総支配人 リチャード・スター (京都市)

薬師寺 代表役員 安藤靖高 (京都市)

壬生六斎念仏講中 会長 林啓之典 (京都市)

善想寺 代表役員 青木英展 (京都市)

個人

林 直巳 (京都市)

樋口ちづ子 (城陽市)

大森 淳乃 (京都市)

大淵美輝子 (京都市)

藤森 弘子 (宇治市)

渡部 静枝 (宇治市)

和田 秀男 (京都市)

竹内 清一 (所沢市)

富永 文雄 (京都市)

操田 邦男 (堺市)

中島 次郎 (京都市)

村田 明彦 (京都市)

富永 由子 (京都市)

渡辺三根子 (枚方市)

境 春子 (京都市)

柴山 哲夫 (京都市)

糟谷 範子 (京都市)

岩井 至栄 (京都市)

田中長兵衛 (京都市)

岩本 歩 (西宮市)

神原 光男 (京都市)

高橋 昭平 (京都市)

中川 利夫 (高槻市)

岩本 正博 (西宮市)

山内 洋子 (京都市)

太田 錠次 (愛知県額田郡)

村上 寿子 (京都市)

大谷美美子 (京都市)

臘谷 寿 (京都市)

本道 隆子 (藤枝市)

田村 文雄 (京都市)

上川 正 (京都市)

中岡 耀子 (京都市)

金井 利夫 (京都市)

平野 昭子 (京都市)

井上 京子 (東京都)

木村周太郎 (京都市)

峠 紀子 (茨木市)

林 政孝 (岸和田市)

川嶋 純子 (さいたま市)

蒲田 眞兵 (京都市)

藤本喜久枝 (八幡市)

山形 洋子 (京都市)

川嶋 博 (さいたま市)

石黒 達也 (京都市)

今野 勇一 (高槻市)

折杉 富子 (京都市)

川上 信也 (流山市)

箕浦 純子 (東京都)

春田 善三 (京都市)

降旗 密枝 (大阪市)

毛利タカ子 (八幡市)

前田 英彦 (京都市)

五十嵐熙江 (守口市)

戸田 斎子 (京都市)

伊勢 初枝 (京都市)

前田 富美 (京都市)

山口 彰 (京都市)

大倉恵美子 (高槻市)

金子 明子 (京都市)

篠原 明 (京都府乙訓郡)

永来 保二 (宇治市)

明石 麗子 (京都市)

大西 久子 (堺市)

鈴木 和子 (京都市)

高橋 克枝 (京都市)

明石 忠 (京都市)

藤井 節雄 (京都市)

堀江 精一 (京都市)

林 詠子 (八幡市)

野村幸三郎 (京都市)

川嶋 秀幸 (さいたま市)

高橋 和子 (京都市)

吉岡 忠義 (京都市)

岩崎 進 (京都市)

垂水 静子 (京都市)

重道 和男 (宇治市)

古橋 徳康 (京都市)

北村 敏郎 (大垣市)

岡本 朗 (向日市)

中井 勇 (向日市)

砂田 岩男 (広島市)

新小田敏子 (東京都)

宮本 文子 (京都市)

八木代志子 (向日市)

松内 正行 (高松市)

吉川 克枝 (京都市)

宮本 吉章 (京都市)

奥戸 得子 (大阪府三島郡)

岡 雅之 (京都市)

小寺 啓介 (京都市)

安藤由記男 (船橋市)

林 享子 (京都市)

澤野 孝弘 (長岡京市)

原田 正次 (宇治市)

今西 祥博 (京都市)

林 節子 (鎌倉市)

前中 恵子 (城陽市)

北村 昭博 (横須賀市)

柳田 康子 (京都市)

杉原 賢一 (京都市)

船田 生人 (鳥取県岩美郡)

岡本 克彦 (浜松市)

ほか匿名27名

村川 伴子 (京都市)

田島 和美 (茨木市)

森川 照子 (京都市)

押師 照代 (京都市)

杉丸 一美 (宇治市)

江口 和廣 (東京都)

【京都市文化観光資源保護基金寄附金】

法人

匿名1名

個人

上村 正宏 (京都市)

江上 泰山 (京都市)

上川 正 (京都市)

毛籠 香代 (宇治市)

上村 啓子 (京都市)

宇野 春夫 (京都市)

梅原 悅子 (京都市)

ほか匿名5名

※各ご芳名は、寄附受納日順に掲載しています。

寄附金は税制上の優遇が受けられます。

当財団は、京都府より「公益財団法人」として認定を受けており、寄附金は特定公益増進法人として税制上の優遇措置が適用され、確定申告により所得税、法人税の控除が受けられます。

また、京都市にお住まいの個人の方は、個人住民税（京都府民税・市民税）の控除が適用されます。詳しくは、事務局までお問い合わせ下さい。

京都市文化観光資源保護財団パンフレットの配付・設置にご協力下さい。

当財団の事業活動は、全国の京都を愛する法人・個人の篤志者の方々から寄せられる寄附金によって支えられています。多くの皆さんのご支援、ご協力が、かけがえのない京都の文化財や観光資源、伝統行事・芸能などを後世に伝える大きな力となります。

このたびの公益財団法人への移行にあたりまして、事業の更なる拡充を図るために会員の増加・寄附金募集の推進につとめる必要があります。当財団の活動を紹介していますパンフレットの配布、設置について皆様のご支援、ご協力をお願いします。ご協力いただける場合は、事務局までご連絡下さい。

京都市文化観光資源保護財団ウェブサイト

—京都 その文化遺産の保護と
未来のために—

<http://www.kyobunka.or.jp>

京都の文化財は国民的財産です
大切に次の世代に伝えるために

—京都の文化遺産を守り伝える当財団の活動 に皆様のご支援・ご協力をお願いします—

会員の皆様からの特別寄附金や新しい会員募集の呼び掛けにも一層のご支援とご協力をお願いします。

|後援事業|

●第46回「京の冬の旅」(主催:社団法人京都市観光協会) 平成24年1月7日~3月18日

「秘められた京の美をたずねて」をテーマに13ヶ所の非公開文化財などが特別公開されます。

○問い合わせ:京都市観光協会 ☎075(752)0227

●年中行事「鉋始め」(主催:番匠保存会)

1月2日 午前10時 広隆寺(京都市右京区太秦)

京都の建築儀式を伝承する番匠保存会が、大工の仕事始めにあたる1月2日に「鉋始め」儀式と京都市登録無形民俗文化財の「木遣音頭」を公開します。

○問い合わせ:広隆寺 ☎075(861)1461

会員

通

信

会員事業を実施しました。

◆京都市指定文化財「長江家住宅ー祇園祭屏風飾りー」特別公開招待事業

7月14日~16日の祇園祭宵山に実施しました当事業には、申し込みのあった121名全員をご招待し祇園祭宵山の風情を楽しんでいただきました。

◆祇園祭山鉾巡行観覧事業(7月17日)

今年の祇園祭山鉾巡行は、日曜日で大変な猛暑の日となりましたが、大勢の皆さんにご観覧いただきました。



◆講演と鑑賞の集い「六角堂・頂法寺」と華道家元「池坊」を訪ねて

去る8月31日(水)に66名の参加者のもとに実施しました。「池坊・六角堂の歴史」と題して池坊中央研究所 細川武穂氏の講演といけばでのデモンストレーションをご覧いただいた後、六角堂と資料館を説明のもとに鑑賞していただきました。



◆当財団オリジナルポストカード“京の三大祭”， 京都五山送り火記念「扇子」の進呈

当財団で作製しました“京の三大祭”オリジナルポストカードを申込希望者全員に進呈しました。また、京都五山送り火記念「扇子」は、大変人気があり141名の方の申し込みがありましたので、抽選により進呈しました。

京都市文化観光資源保護財団 会報 No.102
発行日／2011年(平成23年)11月1日
会報題字／理事長 山口昌紀

印 刷／株式会社 図書印刷 同舎
編集・発行／公益財団法人 京都市文化観光資源保護財団 事務局
京都市左京区岡崎最勝寺町13 京都会館内 TEL 075(752)0235 http://www.kyobunka.or.jp